

登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会 第3回まちづくり部会 議事録

日時 令和4年6月23日（木）13時30分～15時00分

会場 登別市婦人センター講堂（2F）

出席者 （委員）川西委員、成田委員、太田委員、須賀委員、工藤委員、勝間委員

（事務局）【教育部】堀井部長、近間総括主幹、蓬田主査

【総務部】井上次長、大澤総括主幹

【観光経済部】服部総括主幹

（意見交換会参加者）

登別国際観光コンベンション協会 吉田さん、登別温泉旅館組合 山口さん、
観光まちづくり協議会（コンベンション協会） 大野さん、同協議会（登別商工
会議所）山本さん、同協議会（登別商工会議所）田中さん、同協議会 辻さん

○部会長 時間となりましたので、これより「登別中学校 学校適正配置に関する地区別
検討委員会」の第3回まちづくり部会を開催いたします。

前回は、市でまちづくりを担当する総務部企画調整グループより、登別中学校
区のまちづくりの方向性やまちづくりにおける登別中学校の役割、仮に統合とな
った場合の影響などについて説明を受け、その後に意見交換を行いました。

部会員の皆さんからは、登別中学校と地域の関わり合いの多さに驚く声があっ
たほか、まちづくりや観光業界の雇用のためにも学校を存続させるべきとの意見
が多く、学校を残すための方策、ひいては人口を増やすための方策を論ずるべき
との意見もありました。

現在はあくまで議論の材料を集めている段階となりますので、いただいた意見
をまとめるということはありませんでしたが、本日の意見交換が終了した段階で、
前回の結果も含めて取りまとめを行い、学校存続に関する議論に活かしていきた
いと考えております。

それではさっそくお配りした会議次第に基づき進めていきます。本日は、観光

まちづくり協議会、登別国際観光コンベンション協会、登別温泉旅館組合の皆さんをお招きして意見交換を行うわけですが、意見交換を行うにあたり現状をご理解いただくためにも、まずは会議次第2として、事務局より、「登別中学校の現状と見通しについて」と「登別中学校区の『まちづくり』について」説明いたします。

はじめに、「登別中学校の現状と見通しについて」、説明をお願いします。

○事務局 (事務局より資料に基づき説明)

○部会長 事務局より、「登別中学校の現状と見通しについて」説明がありました。引き続き、「登別中学校区の『まちづくり』について」、説明をお願いします。

○事務局 (事務局より資料に基づき説明)

○部会長 事務局より、「登別中学校の現状と見通しについて」と「登別中学校区の『まちづくり』について」説明がありました。ただいまの説明について、観光まちづくり協議会、登別国際観光コンベンション協会、登別温泉旅館組合の皆さんから質問はありませんでしょうか？

○参加者 子どもたちの成長を支えるためには、両親の雇用の安定が前提になると思います。さきほど、資料説明でも、観光は登別市の基幹産業というお話がありましたが、その基幹産業である観光の雇用を支えるということと登別中学校の統合というのがどのように両立するのか。温泉地区の労働者が多く住む地域から中学校が無くなるということは、少なからず観光産業における雇用を確保する面ではマイナスの影響があるように思われるのですが、そのことと観光産業の雇用を支えるということがどのように両立していくのか、何か見解があればお伺いしたいと思います。

○事務局 登別地区に観光産業に従事する方が多くお住まいなのはもちろん認識しており

ますし、中学校を含めた教育環境が整っていることが温泉地区の雇用に一定の貢献をしてきたのは理解しておりますが、子どもたちの教育環境を考えれば、そのために中学校を残し続けるというのは難しいのではないかと思います。中学校が無くなったとしても、住む場所として選ばれる地域であるためには、町の魅力を高めることが重要であろうと思います。そうした意味で、登別地区は、観光都市のぼりべつの玄関口として、JR 登別駅前の整備や情報発信拠点施設の建設など、本市の他地区と比べても、町の魅力向上に繋がる取組が続いています。もちろん、人口増加は一朝一夕で効果が上がるものではありませんが、そうした取組を続けることが町の魅力の向上に繋がっていくものと考えていますし、ひいてはそれが人口増加の糸口になるのだらうと思います。ご質問の答えになっているかは分かりませんが、そのように考えております。

○参加者 実際には私の息子も登別中学校に在籍し、1学年30人以下という状況で、所属する吹奏楽部も来年度新入部員が居なければ廃部というような中で生活しているわけですが、子どもの数がどんどん減り続けるという見通しの中で動くのではなく、子どもの数を増やすためにはどうすればいいのか、そうしたことをみんなで話し合えればいいのかと思います。

○部会長 ありがとうございます。皆さん、質問としては他にありませんでしょうか。それでは、ここから意見交換に入りたいと思います。本日は、お招きした皆さんに部会員から質問する形で意見交換を行いたいと思います。

○委員 観光は登別の基幹産業ですが、道内の他の温泉地と比べてみると、定山溪温泉は小学校、中学校があります。洞爺湖温泉も小学校があります。対して、登別温泉には小学校も中学校もありません。さらに、登別地区から中学校が無くなるということになれば、他の温泉地との比較で住環境の面で見劣りし、観光産業を支える人材を集められなくなってしまいます。それが登別温泉の競争力に影響し、ひいては市税等にも影響が生じる。そうした意味で、登別中学校の統合には反対です。

○部会長 質問というよりは、委員の意見を聞かせていただきましたが、お招きした皆さんから意見はありませんでしょうか？

○参加者 登別中学校と幌別中学校が統合ということになれば、登別地区と幌別地区の距離感が今よりも近くなりますので、観光産業への就業という意味では、逆に人材確保の面で有利になる部分もあるのではないのでしょうか。

○参加者 本日は、観光まちづくり協議会の一員としてお招きいただきましたが、この協議会は、JR 登別駅前に情報発信拠点施設のようなものを整備できないかということで話し合いを進めてきて、結果として、それがヌプルの建設に繋がっているわけですが、そのきっかけとしては、インバウンド観光客が、JR や都市間高速バスを使ってたくさん登別地区に降り立つのだけれど、一方で、駅前の商店街はさびれていっている。そうした状況がある時に、このインバウンド観光客を何とか町の活性化に繋がられないだろうかというのがありました。ただ、登別地区においては、登別中学校の生徒が駅前で熊舞を披露したり、英語で観光案内を行ったり、特色ある活動が行われていますので、商業活動だけでなく、その施設にコミュニティの核としての機能も付加できないかという思いもあり、いま行政も含めて取組を進めているところです。そうしたこの地区の取組を踏まえてなのですが、室蘭市内の高校に通う登別地区在住の生徒が、自らの進路について研究した発表を聞く機会がありました。その生徒は、父親が観光産業に従事しているという環境の中で、中学校において、熊舞や鬼踊りを経験することで観光への興味を培い、卒業後は観光産業への就業を希望しているということでした。こうした発表を聞くと、この地区が観光産業の人材確保に一定程度寄与しているということがわかります。また、観光だけでなく、ジェイコーや三愛病院もありますので、福祉産業の人材確保にも寄与している部分があると思いますし、皆さんのお話を聞いても、そうした面で将来的な価値を見出せる地域なのではないかと思います。私もこの地区で子育てをしたわけですが、保護者としては、もう少し早く統合の議論があっても良かったのではないかというのが正直な感想だと思います。そうした意味でも、人口が減少し、一方で住んでいる方たちがこの地域への愛着を強

く持っていることを考えれば、登別小学校をしっかりと守っていくという発想が必要なのではないかと思います。加えて、はたして中学校があることで、この地域を居住地として選ぶのかどうかということはあらためて議論が必要なのではないのでしょうか。例えば、三愛病院に勤めている若い世代が、中学校があることを理由に居住地として登別地区を選ぶというようには考えられませんし、それは観光産業に就業する若い世代も同様かと思えます。そうした意味で、これをきっかけに若い世代に住む場所として選んでもらうためには、何が必要なのかということであらためて議論する必要があるように思いますし、観光まちづくり協議会としても、そうした議論を進めていきたいと考えているところです。

○事務局 中学校の有無が居住地を選ぶ際の基準となるのかについてはあらためて検討が必要との意見がある一方、中学校が無くなってしまえば、登別地区が居住地として選ばれなくなるとの意見がありました。参考までにお話しいたしますと、教育環境部会において、校区内の保護者の皆さんと意見交換を行う機会を複数回設けておりますが、その際には、現在、子どもを登別小学校に通わせているが、視野が狭い印象があり、中学校入学時には、仮に統合がなければ、明日中等教育学校に進学させることを検討しているという保護者の方が複数いらっしゃいました。そのように、現在の登別中学校の教育環境に飽き足らない保護者が一定数いらっしゃるの確かですし、居住地を選ぶ際に、学校規模が小さいことが教育環境の面でマイナス要素として働く可能性もあるということだと思います。さきほどからの意見交換の関係で、事務局から参考までに情報提供させていただきました。

○参加者 さきほど、観光産業の人材確保のためというお話がありましたが、雇用自体、市内からだけではなく、市外から、そして場合によっては国外からという時代になっておりますので、はたして雇用のためという考え方が正しいのかは議論が必要だと思います。なにより学校の話ですので、まずは子どもの教育環境のことを第一に考えなければならないと思います。子どもたちにとって、保育所まで含めた10年以上を同じメンバーで過ごすという環境が良いことなのか、これを第一

に考えなければならないと思います。統合しても、中学校が無くなるわけではありません。校舎はこの地域から無くなるかもしれませんが、中学校が無くなるわけではありません。通学に少し時間がかかるようになるというだけで、必ずしも住環境が低下するということではないと思います。

○参加者 さきほどの話で誤解があったようなのですが、登別地区から学校が無くなると、人材を確保できなくなるということを申し上げたのではなく、学校まで遠距離になれば、徒歩で登下校できなくなりますので、送り迎えが生じてしまい、現役の子育て世代が働きづらくなってしまいます。特に観光業界は、夕方から繁忙期になりますので、下校時間と重なってしまい、人材を確保しづらくなってしまいます。さきほど、統合しても少し通学に時間がかかるようになるだけという話がありましたが、人材の確保という意味では大きな影響が生じてしまいますので、安易に通学に時間がかかるようになるだけとは言えないと思います。

○委員 就労の場所があっても、就学の場所が無いと、この町の魅力は無くなってしまい、居住地として選ばれなくなってしまうと思います。また、登別中学校には立志式という伝統があったのですが、旧登別温泉中学校との統合の際に、熊舞を教育に取り入れる過程で無くなってしまった。仮に幌別中学校と登別中学校が統合ということになれば、逆に幌別中学校の伝統、良いところが無くなってしまっているのではないかと思います。また、学校がこの地区から無くなるということは、単に通学時間が長くなるということだけではなく、友人も離れた地域にできることになるわけですが、気軽に遊びに行ける距離ではありませんので、友人との交流も希薄になってしまいます。こうしたことを考えれば、私としては、学校は統合せずに維持すべきと思います。

○委員 通学時間が長くなるだけという話がありましたが、通う学校が遠くなれば、例えば部活動が終わった後、どのように下校するのかといった問題も出てきます。カルルス温泉地区に住んでいる子どもたちはどのように登下校するのか。単に通学時間が長くなるというだけではなく、様々な問題が生じることを考えなければ

なりません。

○事務局 部活動が終了した後の下校手段をどうするのかという話がありましたが、室蘭市の例をとれば、一定の通学距離となった場合にはスクールバスを運行し、登校時はもちろん、下校時には授業終了後と部活動終了後に複数のダイヤを設定して、登下校に支障が生じないよう措置しております。また、校区が広くなることで交友関係が希薄になってしまうのではないかと指摘がありましたが、これについても、室蘭市では休校日の部活等の際に利用できる路線バスのパスを配布し、対応しているとのことであり、仮に統合となる場合には、そうした例も参考に、子どもたちが登下校等に不自由を感じないよう、教育委員会として責任を持って対応することになりますので、この点についてはご理解いただきたいと思います。

○参加者 通学時間に関して言えば、登別温泉地区から登別地区と幌別地区へのそれぞれの所要時間を比較すれば、(新登別大橋を利用すれば) 5分程度しか所要時間に差はありませんので一言申し上げたいと思います。それともうひとつ、さきほどから雇用への影響や住環境の面からの話が多く出ていますが、まずは子どもたちの教育環境としてどうあるべきなのかを考えなければならないと思います。子どもたちは順応力がありますので、小さい集団で育てばその環境に順応しますし、大きい集団で育てばその環境に順応しますので、そうした意味での心配は必要ないと思います。であれば、早い段階で少しでも大きな学校で、様々な考え方に触れながら、多様な経験を積んで欲しいと思います。それが子どもたちの成長にとってはプラスになりますし、まちづくりということを考えても、そうした環境で優秀な子どもたちが育ち、将来、温泉地区に戻って力になってくれると思います。私の少し上の世代の温泉地区の住民の中には、小学校までは温泉小学校に通わせて、中学校に上がる段階で、札幌の学校に進学させるケースも多くありましたが、まさに成長にしたがって、大きな集団で多様な経験をさせたいという親心だと思います。そうした意味でも、統合によって少しでも規模の大きな学校に通えるようにする、子どもたちがより良い経験を持てる環境を整えるというのが大人の役割だと思います。

○参加者 幌別東小学校と幌別小学校は統合することが決定しておりますが、両校の人数からいけば、統合しても1学年2クラスの状態が続くとのこと。では、登別中学校と幌別中学校が統合した時に、どの程度の規模の学校になり、子どもたちの教育環境はどう変わるのか、そうした部分をイメージできればいいのかなと思います。また、通学方法にしても、室蘭市の例の紹介はありましたが、登別市においてはどのように対応していくのか。そうした提案がなければ、保護者としても、よし悪しの判断ができない面があるのではないかと思います。

○事務局 通学方法に関しては、教育委員会として、仮に統合となった場合の対応方法について検討を進めておりますし、複数の案も持っておりますが、統合自体が決まらない中で、そうした話をしてしまうと、統合ありきで進めているのではないかという誤解を受けてしまうところがありますので、あえてそうした話をしていない部分があります。もし許されるのであれば、仮に統合となった場合という条件付きでお話しすることは可能ですが、いずれにしても統合の方向性で議論を進めていくということになれば、統合時の条件として、通学方法については第一に協議しなければならないと考えております。また、統合によって、どのように環境が変わるのかということについては、過去にはそうした資料を用意して説明させていただいたこともありますが、本日の説明にはありませんでしたので、補足させていただきます。現在の幌別中学校は、1学年2クラスという状況ですが、仮に登別中学校と幌別中学校が統合しても、1学年あたりのクラス数が増える状況にはありません。ただ、現在の登別中学校は、1学年1クラスという状況で、小学校から中学校まで9年間同じメンバーで過ごしている。場合によっては、保育所から10年以上、同じ顔触れということも考えられますので、そうした状況は少なくとも解消されるものと思います。また、部活動に関しても、現在、登別中学校は3部のみという状況ですが、統合によりその選択肢は確実に広がるものと思います。

○参加者 私としては、小学校をしっかりと残していきたいという思いを強く持っています

す。登別小学校は、小さいながらも地域との繋がりが強く、特色のある教育が行われていて、個性的な子どもを受け入れる素地もある、非常に良い小学校だと思っています。対して、中学校に関しては、子どもたちが置かれている環境を見ても、統合しなければならない状況にあるのは明らかだと思っています。その際に、通学方法をはじめ、統合後における環境面のサポートについては、教育委員会の責任として当然なされるはずですので、その点を交渉材料にするのではなく、さきほども申し上げましたが、中学校を中心に、登別地区で行われてきた活動、観光産業や福祉産業の人材確保に寄与してきた取組をどのような形で残していくのか、また、若い世代がこの地域や登別小学校の良さに気付くための仕組みをどう築いていくのか、そうしたことを協議していくべきなのではないかと思いますし、教育委員会だけではなく、市長部局も含めて、この地域の魅力を高める新たな取組に関し協議できれば、さきほどお話のあったような不安も解消されるのではないかと思いますので、是非そうした部分を議論していくべきだと思います。余談ですが、私は大阪出身ですので、小学校時代から公共交通機関を利用して通学しておりましたので、それが普通でしたし、特に危険もありませんでした。また、それ支えるための環境も整備されておりました。ですので、広域になることによって、子どもたちが否定的な影響を受けるのではないかという議論は少し違うように思いますし、そうした価値観の中で、子どもたちが育っていくということだと思います。

○参加者 教育委員会からの説明によれば、35年後には、市内の学校数は、小学校4校、中学校2校に減少する想定ということであり、人口減少は本市だけの問題ではなく、全国的な趨勢ですので致し方ない部分はあるのかもしれませんが、果たして学校のあり方を考えた時に、これだけ子どもの数が減る中であって、1カ所に子どもたちを集めて授業を行うというこれまでの形を継続していけるのかという思いを持ちました。これは少し大きな話になってしまうのかもしれませんが、今までの学校のあり方自体を考えなければならないのではないかという印象を持ちました。もう一点、仮に統合となった場合の話になりますが、登別中学校跡地の活用方法の話が出てこようかと思います。登別中学校は、国道沿いの一等地に

ありますので、この跡地をどのように活用していくかということに興味を持ちましたし、まちづくりということ言えば、活性化の起爆剤になり得る可能性を持っていると思います。まちづくりとは何かと考えれば、今ある資源や人材を用いて、住みよい状態をつくることという定義になろうかと思いますが、住みよい状態は人それぞれ違いますので、跡地の利用方法も含めて、住みよい状態をどのように実現していくのか議論していかなければならないのだと思います。

○委員 参加者にお聞きしたいのですが、登別地区の学校を卒業し、今は別の地区にお住まいになって、子どもたちも別地区の学校に通っているわけですが、子どもたちが仮に登別地区の学校に通っていた場合、教育環境や利便性の点でどのような違いがあったと思われますか？

○参加者 中学校は高校入学前の3年間です。高校に入学すれば、多くの場合、公共交通機関を利用し、居住地から離れた学校に通学することになりますので、それが3年早まるかどうかという違いなのかなという感覚を持っています。また、教育委員会から、学校規模の目安に関し説明がありましたが、この目安を下回れば自動的に統合するという事ではないのですが、この目安と現状とのギャップを再検討することによって、方向性が見えてくるのではないかという印象を持ちました。

○委員 登別地区の30年前を思えば、ジェイコーはありませんでしたし、三愛病院の施設もありませんでした。当然ヌプルもありませんでした。そうした意味で、30年前には想像もつかなかったほど、新たな施設がこの地区に整備されているわけですが、観光まちづくり協議会の皆さんとしては、さらに30年後のこの町の姿をどのように思い描いていらっしゃるのか、また、期待していらっしゃるのかお伺いしたいと思います。

○参加者 30年後というのは少し難しいのですが、ヌプルのオープンによって、JRはもちろん、都市間高速バスが駅前地域に入ってきますので、交通結節点として機

能することになろうと思いますし、駅前通りには既に新しい店舗がいくつか開業しております。そうしたひとつの大きな経済の流れの中で、活性化が図られればよいと思っています。ヌプルのオープンは来年3月となっていますので、それまでにインバウンドが回復してくれれば、コロナ前の賑わいに少しでも近づけるのかなという思いです。

○委員 小学校や中学校、高等学校、幼稚園も含めた学校の有無は、まちづくりにどのような影響を与えるのか。あるいは影響を与えないのか、観光まちづくり協議会の皆さんにお伺いしたいと思います。

○参加者 学校の有無はまちづくりに大きな影響を与えたいと思います。建設業者の方達に話を聞くと、マイホームの購入を検討する年代は35歳前後が中心で、子どもの小学校入学がひとつのきっかけになるケースが多いということです。そうした意味では、学校の有無は、その地区の人口動向に大きな影響を与えるものと思いますが、中学校との関係性というのはそれほど強くはないのかなと思います。そうした意味では、さきほどもあったように、登別小学校は是非とも守らなければならないのかなと思います。登別小学校が無くなってしまったら、この地区に新たに家を建てる人が居なくなってしまうのではないかと思います。

○参加者 さきほど誤解を受けたかもしれませんが、この地区に学校が無くてもいいということではなく、まちづくりの面では、もちろんあった方がいいわけですが、教育環境との天秤で考えた時にどちらを優先するかということだと思います。学校の話ですので、当然、子どもたちの教育環境としてどうなのかということを中心に考えるべきであり、実は今回お招きいただいた時に、まちづくりの観点から学校統合の是非に関し検討するというところに違和感を抱いたというのが実際のところでした。もう一点、登別地区の将来像の話ですが、JR 登別駅前にヌプルが整備されるわけですが、そうした中、教育旅行が再び注目されてまして、胆振地方で言えば、ウポポイが重要な観光資源にあるわけですが、登別地区においても、銀のしずく記念館が非常に大きな注目を浴びていて、同じ登別地区のヌプルにつ

いても、既に問い合わせがあるところですので、すぐに大きな成果ということにはならないでしょうが、恐らく様々な形で町のあり方に影響が出てくるのかなと思います。

○部会長 予定では、次回も本日お招きした皆さんにお越しいただき、引き続き意見交換を行う予定でしたが、本日の結果を踏まえて、次回はどうでしょうか。

○事務局 部会長からもありましたとおり、予定では次回も引き続き本日お招きした皆さんにお越しいただき、意見交換を行う予定でした。というのも、本日は、事務局からの資料説明が中心になるものと思ってましたので、本格的な意見交換は次回でと考えていたのですが、本日は、お招きした皆さんともかなり深い内容で意見交換を行うことができましたので、予定を変更し、観光まちづくり協議会や登別国際観光コンベンション協会、登別温泉旅館組合の皆さんとの意見交換は今回で終了でもよろしいように思うのですが、いかがでしょうか？

○部会長 部会員の皆さん、いかがでしょうか？

○委員 様々な方向から意見をお伺いしたので、本日お招きした皆さんとの意見交換については、概ね一周したのかなと思います。

○部会長 本日いただいた意見をまとめることも必要かと思います。

○事務局 では、意見交換は今回で終了とし、次回までの間に、事務局で本日の結果をまとめますので、次回はそれを基に部会として議論してはどうかと思います。

○委員 他の団体の方達をお招きし、あらためて意見交換ということは考えていないのですか？

○事務局 それについても、次回、本日の結果をまとめた資料を基に部会で議論を行い、

その結果、他の団体をお招きし、重ねて意見を伺う必要があるということになれば、事務局であらためてセッティングさせていただきたいと思います。

○部会長 部会員の皆さん、そのような形でよろしいでしょうか？

(異議なしの声あり)

○部会長 続きまして、会議次第4「その他」について、事務局よりお願いいたします。

○事務局 さきほどお話ししましたとおり、本日お招きした皆さんとの意見交換は今回で終了し、次回は通常の部会を開催いたします。観光まちづくり協議会、登別国際観光コンベンション協会、登別温泉旅館組合の皆さんには、7月21日も引き続き開催する旨、既にお知らせしておりましたが、以上のとおり、これについては中止となりましたので、またの機会があればよろしく願いいたします。また、次回は通常の部会として開催することになりますが、日程については、既にお知らせしているとおり、7月21日木曜日、時間は本日同様13時30分から、場所についても本日同様、婦人センターを考えております。

○部会長 事務局より次回日程について説明がありましたが、これに関し委員の皆さんから何かありませんでしょうか？

(なしの声あり)

○部会長 それではこれで「登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会」の第3回まちづくり部会を終了します。皆さん、長時間にわたりありがとうございました。